

んど連日警戒警報・空襲警報が発令されて、授業実施不能な日が多かった。

六月下旬になると戦局はさらに激化し、待避や下校のため正規の授業実施は益々困難となった。食糧をはじめ生活物資の欠乏は甚だしく、高等科生徒はほとんど連日校外に出て食糧増産に励んだ。

七月十二日には更に新しい部隊が駐屯した。この頃から戦局は更に一層激しくなり、敵機の来襲が愈々おびただしく、学校教育は益々困難の度を増し、連日警報下のみじめな生活をしなければならなかった。

(『湖北小学校百年誌』)

手賀沼女教員殉難事件

戦局の激化により、召集される教員が増加すると、国民学校教員に占める女性教員の比重がしだいに高くなってきた。

「学校沿革史」には、召集された男子教員の補充として、年度途中で着任した女性助教員や初任教員研究会の開催、女教員会研究会、他県女教員会の参観などがたびたび記載されている。

こうした状況のなか、東部八校の責任者の立場であった千

浜校長は、女教員錬成会を結成し、年に四回、一回につき二校を相互視察する東部女教員相互視察を実施して、銃後の女性教員の覚悟と相互錬磨を行ってきた。

手賀沼女教員殉難事件は、昭和一九年度の第三回東部女教員相互視察が行われた十一月二二日に起きた。

本校及び手賀東校二於テ東葛飾郡東部教育会主催女教員相互研究会ヲ開催、東部各学校長及び女教員四十余名、午前中本校ノ視察ヲ了シ、手賀東校ニ赴クノ途中、手賀沼ニテ乗船セル渡船、突風ノ為顛覆シ全員遭難、我孫子中央校長千浜宗一郎、本校教頭春木芳雄以下、女職員十三名殉職ス。

(『湖北国民学校沿革史』)

東部女教員相互視察研究会ヲ湖北校及手賀東部校ニ開催、本校ヨリ千浜校長以下、椎名芳子、湯下光代、浅倉ふさ、香取好子、吉元アツ、中村良子各女教員参加。午前十一時三分、一行四十名、湖北校ヨリ手賀東部校ニ赴カント中里渡ヨリ手賀沼上ニ出タル所、突風ニ遭ヒ、渡船顛覆、全員遭難急報ニ依リ、田口教頭外職員現場ニ急行、急救作業ニ奔走セルモ、本校々長千浜宗一郎氏、^(ママ) 准訓導中村良子氏ハ、他校十七名教員ト共ニ遂ニ殉職セラ

ル。(『我孫子中央国民学校沿革史』)

一行四十名は午前十一時三十分、中里の渡しから舟に乗った。風は強かったが、こちら側は危険を感じさせるほどではなかった。しかし一艘ずつではあぶないので分乗した三艘の舟を横に並べて綱で結び合わせた。

沼に出ると風がいつそう強くなり、波のうねりが高まってきた。湖心までくると、繋ぎ合わせた綱がゆるみはじめた。舟と舟の間があき、そこから水しぶきが吹き上げてきた。若い女性である。着ているものを気にして声を上げながら体をよける。そのたびに舟はぐらりと傾いた。「動いてはいけない。動いては危険だから、じっとしていなさい」。千浜校長がたしなめた。

舟はあと三分の一で対岸に着くところであった。水しぶきが上がり、本能的にみなが身を寄せたとき、西からの突風が襲い、あつという間もなく三艘の舟がいつしよに波に吞まれ、全員が水に投げ出された。悲鳴が波に消された。

沼には農民の藻取り舟が出ていたのだが、ちょうど昼休みでみんな岸に上がって休んでいた。それも不幸である。

急報はあちこちへ飛んだ。我孫子中央校では田口教頭

が残っていた。その日生徒は早めに下校していた。「千浜校長危篤、すぐ医者をつれてこい」。田口教頭にもたらされた報せは右のようなものであった。使いの者にきいても、くわしいことはわからない。田口教頭はすぐ校医の山下、矢口の両氏へ連絡をとったが、二人とも不在であった。自転車を飛ばして日立精機の診療所へ行き、診療所の医師を自転車の荷台に乗せて現場に急いだ。

対岸へかけつけたときは事件の発生から一時間も経っており、すでに引き揚げられた遺体が土手に並べられていた。その中に千浜校長と中村良子准訓導の悲しい姿があった。十九名の教員が殉職されたのである。殉職者は寒さと厚着のために水中で身体を奪われたのであった。

（我孫子第一小学校『百年史』）

湖北・我孫子両校の「学校沿革史」と我孫子第一小学校『百年史』の記載から明らかのように、東部女教員相互視察研究会に参加した女教員四〇余名が、湖北国民学校から手賀沼を渡って手賀東部国民学校へ移動する際、突風により三艘の渡船が転覆したため、千浜校長をはじめ、国民学校児童や幼児を含む一八名が溺凍死したのである（表8―10）。

殉職した女性教員は、布佐三名、湖北・富勢・風早各二名、

名前	年齢	所属	備考
千浜宗一郎	49歳	我孫子中央校長	大正3年千葉師範講習科終了・昭和2年4月我孫子小校長・同18年正七位
春木芳雄	37歳	湖北教頭	昭和2年千葉師範卒業・同17年4月湖北教頭
小林富み	36歳	風早訓導	大正14年3月松戸高等女学校卒業・昭和3年3月風早校訓導
中島芳枝	20歳	湖北訓導	昭和16年3月印西女子実業学校・同10月千葉県教育会講習所卒業・湖北訓導
岡部まさ	20歳	我孫子東部訓導	昭和16年3月野田高等女学校・同18年3月千葉女子師範卒業・同4月我孫子東部訓導
蓮沼水子	19歳	富勢訓導	昭和16年3月長生高等女学校・同10月千葉県教育会講習所卒業・富勢訓導
小川フサ	19歳	湖北訓導	昭和17年3月敬愛高等女学校卒業・同4月湖北助教員・同19年10月訓導
矢部喜代	19歳	風早訓導	昭和17年3月長生高等女学校卒業・同4月風早助教員・同19年10月訓導
水上千代子	18歳	布佐訓導	昭和17年3月御宿高等女学校・同10月千葉県教育会講習所卒業・布佐校訓導
菅井トク	17歳	富勢訓導	昭和18年3月松戸高等女学校・同10月千葉県教育会講習所卒業・富勢訓導
栗林美知子	16歳	布佐訓導	昭和19年3月野田高等女学校・同10月千葉県教育会講習所卒業・布佐訓導
斉藤綾子	20歳	布佐訓導	昭和16年3月印西女子実業学校卒業・同4月木下助教員・同19年4月布佐訓導
岡田伸子	19歳	手賀准訓導	昭和18年3月松戸高等女学校卒業・同6月手賀助教員・10月准訓導
中村良子	17歳	我孫子中央訓導	昭和18年3月松戸高等女学校卒業・同4月我孫子中央助教員・同18年10月准訓導
大熊節子 (旧姓長谷川)	24歳	元手賀准訓導	昭和13年3月佐倉高等女学校卒業・同4月手賀助教員・16年4月訓導・19年3月結婚により退職
伊藤カツ	21歳	我孫子青年学校指導員	昭和19年3月大妻専門学校卒業・同11月我孫子青年学校指導員
深山あい	13歳	手賀国民学校在学	幼児
長谷川栄一	6カ月		

表8-10 手賀沼女教員殉難事件の犠牲者一覧

我孫子中央・東部・手賀各一名の計二二名で、平均年齢は二〇歳、そのほとんどが教員経験一・二年の若い教員だった。殉職した教員の葬儀は、職場であった各国民学校での慰霊祭、町村葬、合同慰霊祭の順序で行われた。

湖北国民学校では、一月二八日に殉職三訓導の初七日慰

霊祭、二月五日に「故人ノ遺徳ヲ偲ビ、村内ハ元ヨリ村外各方面ヨリ会葬者多数」参列するなか村葬が行われた。一方、我孫子中央国民学校では、一月二四日に空襲警報が発せられるなか、五年生以上の児童と全職員が参列して千浜校長、二六日には四年男子組・柴崎青山四年生以上と全職

員が参列し、我孫子尋常高等小学校出身であった中村准訓導、
 一二月二日には千浜校長・中村准訓導および東部校の岡部訓
 導、青年学校伊藤助教諭の町葬が行われた。我孫子町議会は、
 南洋諸島で名誉の戦死を遂げた二人の海軍兵士と四人の町葬
 費用として三三〇〇円を計上した。一二月二日、東葛飾郡
 教育会主催で故千浜宗一郎ほか一七名の合同慰霊祭が行われ
 た。

教育関係ハ勿論、各官庁及各界代表有志ノ弔詞ハ故人
 等生前人格功績ヲ遺憾ナク詳述セラレ、一同感涙ニ咽ビ
 タリ。特ニ千浜校長ガ本校ヲ今日アラシメ全県下否全教
 育界ニ遺シタ功績ハ最大級ノ賛辞ヲ以テ綴ラレ、表明セ
 ラレタリ。英霊ヨ以テ冥スベキカ。

〔我孫子中央国民学校沿革史〕

我孫子中央国民学校の卒業生は、次のような詩をよせて、
 教育界に多大な功績を印した千浜校長を偲んでいる。

おらがの先生大声で 沼に向かつていいました
 熱心まじめにやり通す これが我孫子の宝だと

おらがの先生声からし 筑波の空にいいました
 社会のために役に立て 親切こそが宝だと

おらがの先生汗のまま 祈りの中でいいました

誠のこころ和のこころ これが我孫子の宝だと
 おらがの先生手賀沼に しろき理想の雲ながめ
 声なき声でいいました これが我孫子の宝だと

〔我孫子第一小学校『百年史』〕

翌二〇年一月二九日、千浜校長の後任として加瀬完校長が
 赴任した。

昭和二十三年、命日にあたる一月二二日、中里の渡しを見
 下ろす小高い丘に、殉難した地点に向かって「手賀沼殉難教
 育者之碑」が建立された。石碑の表面には当時湖北国民学校
 長であった秋元春治の命名による「手賀沼殉難教育者之碑」
 が、裏面には当時の我孫子町長染谷正治と秋元校長の撰文、
 森千代松我孫子中央国民学校訓導の揮毫による碑文が刻まれ
 ている。以後、毎年一月二二日には、関係者による慰霊祭
 が行われ、同一年には千葉県教職員組合東葛支部・関係市
 町村校長会主催で二三回忌追善慰霊祭、五一年には三三回忌
 追善慰霊祭が挙行された（藤掛省吾・岡本和男「千浜宗一郎
 と自学中心主義教育」『市史研究』第四号）。

無条件降伏そして新教育

八月一五日 正午、終戦の詔勅下る。此处に日支事変を